

会議の名称	令和元年度 伊予市健康づくり・食育推進協議会
開催年月日	令和2年2月13日(木)
開始・終了時刻	午後2時から午後4時
開催場所	伊予市保健センター
会長氏名	斉藤 功会長
副会長氏名	稲田 貫副会長
出席委員(者)氏名	斉藤 功委員、稲田 貫委員、佐々木典彦委員、竹内竜美委員、 安渡偉典委員、友澤千代委員、徳田 徹委員、土井一成委員、 上岡 孝港南中学校校長、大西墨子委員、小畑昇子委員、吉澤三千久委員、 向井早苗委員、向井裕臣市民福祉部長
欠席委員(者)氏名	平野孝志委員
傍聴者氏名	傍聴者なし
事務局職員職氏名	下岡裕基健康増進課長、篠原知美健康増進課長補佐、 大谷香代子健康増進課長補佐、影浦ひとみ健康増進課長補佐、 山内朋子健康増進課係長、戸田ゆかり健康増進課係長、 松浦あずさ健康増進主任歯科衛生士、小倉直子健康増進課主査
説明者の職氏名	影浦ひとみ健康増進課長補佐、山内朋子健康増進課係長、 小倉直子健康増進課主査
会議次第	1 開会 2 自己紹介 3 会長挨拶 4 議事 (1) 各機関、団体等の取り組み報告及び健康づくり・食育に関する意見について (2) 伊予市の健康づくり・食育推進への取り組み状況について (3) 意見交換 5 その他 6 閉会
配布資料等	○資料 1 今年度の健康づくり・食育推進関係の取組及び課題 ○資料 2 令和元年度伊予市健康づくり・食育関係事業実施一覧表 ○資料 3 健康づくり計画における指標の変化

会議録

発言者	会議の概要
開会	(委員、事務局の自己紹介を行う。)
○事務局	ありがとうございました。それでは、この後の議事進行につきましては協議会条例第6条の規定に基づき斎藤会長に議長をお願いしたいと存じます。斎藤会長よろしく願いいたします。
○会長	それでは、まことに僭越ではございますけれども私の方で議事の方を進めさせていただきたいと思っております。およそ時間が4時までとはなっておりますけれども、速やかな進行をご協力いただければと思っております。それでは次第にのっとりまして協議事項の4、各機関、団体等の取り組み報告及び健康づくり・食育に関する意見についてご報告をお願いいたします。
○委員	これに関しては資料1の順番に各委員の皆様よりご報告をいただいておりますので、まず、伊予医師会さんから順番をお願いいたします。 医師会としては県内の行政と一緒に糖尿病重症化予防ということで健診時に糖尿の血糖を回収しそれを医療機関に受診勧奨し医療機関の方が関与する立場で現在取り組んでおります。
○委員	伊予市健康づくりの会では、保健師さんに依頼をいたしまして健康講座、「健康になるコツを学びましょう」というテーマで開催していただきまして住民の意識向上に努めております。ちなみに6月3日は中山地域事務所で行いまして23名の参加です。5月30日双海保健センターで行っていただきまして45名が参加していただきました。6月4日は伊予市総合福祉センターで開催していただきまして34名が参加していただきました。 それから、いよし健康ウォーキング大会や東温市ウォーキング大会等にも参加して健康促進を図っております。いよし健康ウォーキング大会を4月16日に行いまして、105名五色浜、五色姫海浜公園をウォーキングをしました。東温市のウォーキング大会は、伊予市から2名参加して全体で50名ほどの大会でございました。 それと1日研修&親睦ツアーをこれから3月に開催を予定しております。みなさまの健康向上を図りたいと思っております。3月27日の金曜日に予定しております。
○委員	伊予市食生活改善推進協議会です。グループ伝達の講習会15グループが各地区で毎月1回程度の開催をしています。対象は地域住民年間150回、約2,000人食生活、運動、休養、喫煙、飲酒等の生活習慣改善のために栄養バランスの良い献立の調理実習を行っています。 親子の食育教室で夏休み親子ふれあい健康教室を行っています。8月22日対象は小学生と親、参加者32名、健康の話、「食生活を良くし

<p>○委員</p>	<p>よう」調理実習としてサバのドライカレー、トマトのナムル、マーボー春雨、レタスとベーコンのスープ、牛乳ココアプリンなどを作りました。</p> <p>生涯骨太クッキングは、11月19日、対象は地域住民、参加者25名、講話、調理実習「鮭チーズごはん、みそ風味のクリームシチュー、青葉とチーズのわさびマヨネーズ和え、ほうじ茶プリン」などをしました。</p> <p>世代別に取り組む生活習慣予防のためのスキルアップ事業として、講話「生活習慣病予防について」調理自習を1月26日にしました。シニアカフェ茶話会を2月に行いました。対象は高齢者でした。</p> <p>伊予市青年者協議会です。毎年、伊予市立なかむら保育所さんの年長、年中さんのお子様を対象に食育活動を行っております。昨年5月にトウモロコシの種まきをいたしました。できることは全部、なるべく子供たちにやらせてもらって種まき水やり等を行っていただきました。7月に子供たちが種まきをしたトウモロコシの収穫を畑で親御さんも参加していただいて、収穫して試食していただきました。やっぱり自然の中で収穫、試食をしてもらうことで、当たり前のように子供たちが普段食べているものが、どうやってどのような苦勞でできているかを感じてもらえる機会ができて大変いい時間だったと思います。</p>
<p>○委員</p>	<p>伊予商工会議所でございます。ご案内の通り私ども伊予商工会議所はいわゆる商工業団体でございます。直接、県民の方あるいは市民の方への健康づくりという働きかけはございませんけれども、そこに記載した2つがございます。まず1つは商工会議所内での取り組みでございます。これはいわゆる事業主、事業所として当然の責務でございますけれども対象職員が9名おります。この職員の定期健康診断と2次検査の100%の受診、その後の管理職による健康状態の管理を行っております。それと2つ目は先ほど申し上げました通り、商工業団体としての取り組みでございます。いわゆるいろんな価値観が多様して昨日まで絶好調であった職員が急にちょっと変な行動をしだして、それがやがて休職に結びついていって、重篤な症状につながっていくというような事例が多くある中で、やはり職員の健康を意識した経営を心掛けていただくことが大事であることを事業主のみなさまにわかっていただきたいという趣旨のセミナーを実施いたしました。そこに記載の通り、対象は主に伊予商工会議所管内の会員、いわゆる経営者の方を対象として、セミナーの名前は「少子高齢化を勝ち抜く健康経営セミナー」ということで昨年9月25日に伊予商工会議所内で約20名の参加をえて実施をいたしました。セミナーの概要は、この経営健康のコンセプトをまずお話をいただきました。それは、成長の続く時代はいわゆる企業として、健康というのは財務であったり業績であったわけでございますけれども、現代は社員の</p>

健康を重要な経営資源としてとらえて、健康促進に積極的に取り組む経営スタイルがひいては生産性の向上及び企業のイメージアップまた各地域へのインセンティブに繋がるというコンセプトがあるということをもまずお話をいただきました。更に具体的な進み方として社内外への健康宣言、それと健康管理を担う担当者を決めること、それと3番目は一番大事なことでございますけれども、職員の健康課題の把握いわゆる定期健診率の把握でございますとか、結果の見える化、何かの取り組みをしてどれくらい成績が上がったか向上したかということでインセンティブに繋げていくということ、それと近年の大きな課題でありますけれども社員の心の状態の把握をするということ、それとまた働き方改革にも関わってまいりますけれども、残業、有給の取得状況それと規則正しい食事、食生活の把握をしようということでございます。それと4番目にそういった健康管理の計画の策定と健康づくりの推進、最後にそういったことをやったことによる社内の反応、効果の確認いわゆるPDCAサイクルを実施していこうといった内容のセミナーをいたしまして、少しでも社員の健康ひいてはそれが市民への健康につながるような認識付けをしたところでございます。

ただ、課題としては、やはり担当者を決めるというのは組織団体対応ができるかどうかとそうでない規模のところがありますので、こういった部分どうやって穴埋めをしていくのかが課題ということを認識をいたしました。

養護教諭の代表として発表させていただきます。私たち養護教諭は学校において子供たちの健康の保持増進、安全な学校生活を目指して保健室等で職務を行っております。

健康づくりに関しましては、各学校でそれぞれで取り組んでおりますので本日は資料提供ということで、運動器健診事後指導の充実に向けての取組ということで、7ページから資料に載せています。

最近子供たちの運動不足によりまして運動能力の低下とか体力が落ちてきているような子供たち、または運動のやり過ぎ、幼いころから1つのことを取り込み過ぎてスポーツ障害という形で運動器疾患をちょっと抱えていたりスポーツ障害というような子供たちが多いため、そのことについての早期発見と、そしてより健やかで活力ある将来に結びつけるということで運動器健診というもののが平成28年度からスタートしております。7ページに載せておりますものは意義ですとか、実際の方法につきまして、健康診断のマニュアルから抜粋をしております。主には8ページを見ていただいていると思いますが、運動器健診保健調査票というものがあまして、こちらの方を保護者の方、あと実際に児童生徒が実際におうちの方でやってもらって、記入をしていただきます。

○委員

こちらの方から1つでもチェック項目にマルがついている生徒を対象に抽出をして実施しております。ですが2番の「現在、病院などで治療または経過観察を受けていますか。」というところで、あの専門医の方に雇っている子供たちは、もうそちらの方で見ていただくということで除外をしております。この保健調査票から抽出した児童生徒をもとに学校医の先生に子供たちの体のことを、心臓の様子ですとかそういうところを見ていただく学校医の先生に内科健診時に合わせて運動器健診として実施をしております。9ページが、今年度の運動器健診の結果になっております。実施期間は4月から定期健康診断の6月ということで実施しております。対象は伊予小中学校児童生徒運動器健診保健調査票から抽出というふうなことで、実施方法は学校医による視触診等となっております。問診者抽出者イコール運動器健診対象者となっております。グラフで載せておりますが小学校と中学校でこの人数でやっております。保健調査票から抽出して、一応悩みを抱えている児童・生徒と対象に実施ということになります。結果につきましては、小学校の方が受診勧告者が10%、経過観察が27ということで何らかの異常をかかえている生徒が37%で、中学校につきましては、やはり部活動も行っていることというようなこともありますが受診勧告者が22%で、経過観察の方が47%ということで小学校のまあ2倍弱ぐらいは骨、関節等、そういう運動器にちょっと問題を抱えているとなっております。10ページの受診勧告者につきましては、整形外科医の専門医への受診というようなことでまた、専門的な御指導をいただく訳ですが、経過観察、学校医の先生から痛みが出るようだったら病院に行った方がいいよ。とか、あとちょっと様子をみましよう。経過をみてください。というふうな児童・生徒につきましては、このような内訳になっております。保健調査票から項目別に拾っていますが、側弯に関する項目というのは主に姿勢方で気を付けていきたいと思います。あと小学校も中学校も多くなっているのが、しゃがみ込みというところですがなかなか子供たちしゃがみ込む生活スタイルが以前のような和式のトイレなどありませんし、なかなかしゃがみ込む機会が少なくちょっと体が硬いところがあったり、1つの運動についても1つのことしかしない、いろんな全身を使うような運動もしていたら違ってくるのかもしれませんが、そういうところで偏りも多くなっております。あとその他は、継続をしてスポーツをしている生徒がちょっと足が痛い。肩の方が痛い、保護者の方が記入している内容になっております。そういった結果を受けまして、今年度で4年目の運動器健診を取り入れてから新しい健康診断項目ですが、運動器健診の保健調査票の見直しを行いました。8ページの問診票、調査票をみますと、毎年1年毎で様子を見る形ですが、子供たちの小学校から中学校とか前年度

の様子なども見ていったらいいということで、9年間のものを使っていこうということで原案を作成しました。それによって、小中の引継ぎもできるかなというところです。健診フローチャートの作成は、健診の流れをスムーズにしていこうという私たちの健診、それで、また学校でも全教職員にも伝えやすいために実施、作成をしました。健診結果通知文書見直しは、受診勧告について昨年度までは使っておりましたが、経過観察についてもちょっと細かい内容で保護者の方にお知らせをしようということになりました。

そして事後指導資料の作成です。経過観察者につきましては、今のところは病院に行くほどはないけど様子をみましようというところなので、疑われるスポーツ障害等についてですとか体が硬い子供たちが多いのでそれについての資料を今はたくさんの資料がありますので、そちらの方を私たちが必要なものを精選しながら独自に作りました。

研修会の開催ということで、体とか運動器についてより理解を深めていこうということで1月24日に研修会をこちらのこの会場で行わせていただきました。姿勢のことですとか体幹、体のしくみ実技指導などもしていただいて私たちも来年度の健診に生かしていきたいと思っております。

このような形で今年度取組ましたので、来年度の4月からまた定期健康診断が始まりますので、そちらで活用してスムーズに健診を終え、経過観察ということで子供たちの生涯に渡って体づくりがスムーズに行えますようにまた実践していきたいと思っております。どうもありがとうございました。

栄養教諭の方の取組についてご報告させていただきます。5つに分けてお知らせをさせていただきます。

まず、1つ目、食に関する指導事業の実施についてです。伊予市には9校の小学校そして3校の中学校があります。それぞれの学校での希望を取り入れながら授業をさせていただいております。5年生の「五大栄養素」とか6年生「1食分の食事～リクエスト給食～」についてということで、これらは家庭科の授業で取組をさせていただいております。今年度は初めて全9校の全部の小学生のリクエスト給食を考えるという授業が実施できましたので、11月から順次取り入れております。家庭配布用の献立表でお知らせをしております。1年生では伊予市の特産品である「そら豆」をむいてみようということで観察しながら剥いてもらっております。剥いたそら豆を給食に出すことは、9校分全部はできませんので、そら豆のごはんを2回は分けて炊かせてもらっています。また、4年生では、生活病健診もありますので、おやつについて考えてみるという授業も取り入れております。各校で給食試食会も実施してござ

○委員

す。グループワークを郡中小学校で行いまして、朝ご飯をどのようにして食べさせているか、保護者のアイデアをいろいろいただきました。

2つ目は体験授業の実施です。伊予市の給食センターが平成28年の9月に開設したのですが、給食センターのことを良く知ってもらおうと夏休みに実際に調理現場に子供たちに入ってもらって、釜を混ぜたりとかフードスライサーという野菜を切る機械で切ってみたりとか、伊予市の特産品である鱧のすり身を混ぜててんぷらにするため子供たちは混ぜるところまでの体験をしたり、中山のスイカをくり抜いてフルーツポンチにしたりとかいうようなことを親子30組に参加してもらっています。これは大変好評でご飯が炊き上がって混ぜる時なんかはもうほんとにカメラフラッシュがすごい状態になってみなさん、お母さんたちも驚きの声をあげています。

3つ目、給食についてのアンケートの実施を3年間、毎年1月に実施をさせてもらっています。今年度も実施したのですが、「給食の時間は楽しいですか。」というところで、今年度の学年別の表示をさせてもらっています。1-2については平成29年、30年、令和元年ということでそれぞれを比較させてもらっています。やはり、4年生のものが給食の時間が楽しいと答えているものが多いのですけれども、年度別に見てみると、今年度の方が全体的に増えているというところがわかります。給食の評価についてもアンケートによって子供たちに聞くのも必要なので、給食はおいしいですかという質問を取り入れています。4年生では、おいしい・まあまあおいしいが93.6%、6年生が85.8%、中学校2年生82.5%となっております。3年間の推移がわかって今年度は、昨年度よりも評価が高くなっています。また、おかずが足りているかどうかこのアンケートで子供たちの声を聴くようにしています。おかずの量が少ない、やや少ないと答えているのが、4年生では11.7%に対して、中学生では21.4%で、中学生に対するおかずの量は検討していかなければならないなと感じております。それから、給食の好きなメニューをパン・ごはん・おかずについて聞いていますが、揚げパンを今年度は年3回出しました。揚げパンの好きな子が335人ということで、第1位に上がっています。給食センターで油で揚げて砂糖をまぶして、1個ずつ紙袋に入れて、数えて送るということで結構手間がかかるので、中学校の給食がないときとか、小学校がない時とかというところを駆使しながらやっております。おかずについては鳥のから揚げが第1位です。サバの味噌煮の和風料理も好きなメニューとしてあがります。伊予國みそ汁も29名ということで第4位に上がっております。ごはんはなぜか白ごはんが第1位という結果になっておりました。伊予國みそ汁というのは伊予市の食育の日が毎月14日にあるのですが、そ

れに合わせて平成27年度から伊予市の特産物に対して知ってもらい、また、みそ汁の良さを見直してもらうためにずっと続けている取り組みですが、伊予國みそ汁を好きという子供が大変多くなっています。4年生89.7%、好きとまあまあ好きと合わせて、6年生82.3%、中2、81%になっています。これも年々増えているのがうれしい限りです。地場産物の取組についても給食センターでもできるだけ多く使うように心掛けていますが、これについて「取り組みをしていることを知っていますか。」という問いに対して、知っているが総合で87%いました。学年別で見ると中学生と6年生は90%を超えています。これについては、小学校6年生の時にリクエスト給食等で地場産物を給食は取り入れてる、そして自分たちのリクエストメニューにもそういうものを取り入れようという授業での取り組みが生きてきたのかなと思います。毎月の献立表の下にも載せたり、給食時間の放送でもお知らせをしているんですが、やはり、4年生はその程度では70%超えということで、今後どんどんそういう授業でも子供たちに呼びかけていかなければと思っております。

また、学校給食における地場産物の活用の取組について資料に示しています。伊予市産の推移、それから県内産、国内産、外国産に分けています。県の食育推進計画で、最初は愛媛県産を30%ということでした。順次、上がってきて35%、今現在は40%を目標にといいところになっております。今年度の取組、令和元年度の6月、11月そして1月については40%は十分に超えています。伊予市が計画している方の30%とは、なかなか達成できていないという現状です。

最後、5の取組ですが伊予市給食センターにおきまして、ホームページを平成30年度の11月から充実させて参りました。レシピやつぶやきなど給食センターの様子が見えるようなことを入れております。それから、先ほどの伊予國みそ汁についても平成27年度から夏休みにポスターを募集して毎年、子供たちに出してもらって、これは令和元年度の金賞、銀賞を載せております。あと、小学校4年生と中学校1年生が毎年、生活習慣病健診をします。

そのあとの事後指導ということで私たち栄養教員の方で個別指導もさせていただいております。

私の方は特別、団体とか組織とかに所属しているわけではないので個人的な意見として資料に載せさせていただきました。私の集落は16世帯くらいありまして、80歳代くらいの方が9世帯、あと70世帯が4世帯でまあ両方合わすと75%を占めるくらいの高齢化の地域です。調査をしたわけではないのですが、話の中で、大概の病気を持っております。肺がんとか糖尿病、心臓病、腎臓、肝臓、認知症に心身症から高血圧、痛風からの関節の痛みとか腰の痛みはほとんどの家庭の人が持ってい

○委員

るようです。そういった事情が多い農村地帯の集落です。

そこで実際にどういう食事をされているのかなど、いろんな会やお話を通じて聞いた範囲では、ほとんど自分で作っている家庭の人がおりませんでした。後継ぎがないので、70、80代の人料理を作るというのも大変かなとは思いますが、ほとんどがパックのお惣菜をスーパーで買って来て済みます。しかも少人数で2人か1人世帯が多いので、そういった食生活になっているようです。最近、ここ何か月前からスーパーの移動販売車が上がってくるようになったのですが、この中でもほとんど、出来合いのおかずを買って済みますという風な現状です。これで、本当に栄養が取れるかどうか、実際に病気を持って医療機関に掛かっている人がほとんどなのですが、食事についてはほとんど関心がないというのが実態ではないかなという風に思いました。こういった状態なので、できたら集落単位ぐらいで、病気を悪くしないための食事をどういう風にしたらいいかと思ったりしています。特に若い人で単身1人は、料理教室で料理を覚えるのではなくてユーチューブを見て、料理は十分できるという話をちょっと聞いたのですが、確かに考えてみれば、料理はほとんど1人でするものなので、私も1年間くらいは料理教室にも通わせてもらったんですが、何人かのグループでするとどうしても分業になって1人がすべての料理をするという具合ではないので、そうするとユーチューブみたいなので、繰り返しわからないところは再生してみた方がよいと思いました。高齢者は、ユーチューブを、私も使えませんですけど、使えない人のための動画みたいなものがないものか考えている毎日というところです。

○委員

中予保健所でございます。本日、お配りいたしましたヘルスアップ選手権のカラーのチラシと、それから、健康フェスタin中予といいますチラシについてご紹介させていただこうかと思います。

先ほど、伊予商工会議所様からも、健康経営というお話が出ておりました。今回、中予保健所の方で働く世代の健康づくりについて、少し取り組みましたので紹介します。今、定年が60歳から65歳へと段階的に延長されているところがございますけれども、働く世代もだんだんに以前に比べて高齢化といいますか、みなさん、年金が出るまで少し働いてという方もかなりおられると思っておりますけれども、働く方々が若い時から健康づくりに気を配って社会で長く元気に働くために、何かのきっかけづくりにならないかなということで、今回、ヘルスアップ選手権ということで、働く世代の労働人口が多い中予地域におきまして事業所対抗の健康づくりの選手権をさせていただきました。

これは、職場の仲間と楽しみながらコミュニケーションを図りまして健康づくりの意識を高めて頂こう、事業所間での健康づくりの機運を調

整しようというところで取り組みましたが、本県の愛媛健康づくり21という健康づくりに関する計画をもとに作ったものでございます。オレンジ色のヘルスアップ選手権令和元年秋の陣というのがありますけれども、職場の仲間、5人でチームを組んで健康づくりを競い合います。職場チーム部門と事業所部門の2部門を作りまして、ヘルスアップ選手権がスケジュールのところにあります。9月1日から11月30日までの3か月間で選手権を開いておるものです。裏のページを見ていただきますと、健康づくりの目標というのをご覧いただけるかと思いますが、運動と歯と口腔と食事とタバコと睡眠、この5つの中から新たにチャレンジする目標を1つと、1つをチーム5人で共通目標を作って、あと2つは個人目標として計3つの目標を決めていただいて、3か月間、毎日、その目標に取り組んでいただくというような内容での選手権でございます。これを9月から11月まで3か月間続けて毎日取り組むというところもすごくハードルが高いところではあります。毎日続けていただくことで健康づくりの習慣をつけて頂くところを狙っておりました。

これの選手権の表彰式を今度2月の16日、今度の日曜日になりますが、健康フェスタin中予というイベントの中で表彰式とそれから今先ほどお話し5つの項目の体験コーナーを作りましてイベントを開催する予定としております。ヘルスアップ選手権は、3か月取り組んでいただきまして、健康づくりの目標、実際に選んだものが多かったことをご紹介しますと、3階差以上は階段を使うという項目でございますとか、食事になります。朝食を必ず食べるとか、体重計にのるとか、それから個人目標で多かったのは、朝夜ストレッチで筋トレをするという運動、それから、食事の夕食を食べ過ぎない、腹8分目にする、食事の朝食を必ず食べるというような項目が結構選ばれておりました。実際、チームにエントリーいただいたのは172チームありまして、この中で毎日取り組んでいただいた方々を表彰するというのが、今度の日曜日の表彰式でございます。みなさんの参考の感想としましては、やせたとか、健診結果が良くなったとか、たばこの本数が減ったなどという反応もありましたし、数値化はできないまでも、体調がよくなったとか健康リズムが整ったとか職場の人と仲良くなった、自分で取り込むことで家族も一緒に取り組んだなどのご意見をいただいたところです。一応これ働く人の健康づくりの仕掛けといいますか、取組として、中予保健所ではここ数年取り組んでいきたいなと思います。

もう1つ、第2章、中間評価の目的と方法ということでお配りしている資料をご覧いただければと思います。第2次県民健康づくり計画の先ほど少しお話ししましたが、えひめ健康づくり21の中の中間評価のことを

	<p>少しだけお話させていただこうかと思えます。県の方でも健康づくりの計画を立てておりまして、国の見本、健康日本21の取組から私共の第1次県民健康づくり計画、今は第2次になっておりますけれども、えひめ健康づくり21という計画を策定しておりまして、平成30年度がちょうど、中間評価でございましたので、その資料をお持ちいたしました。中間評価の結果をご覧いただければと思います。全分野66項目を評価したと書いておりますけれども、この計画の中には5つの基本的な方向というものがありまして、8ページ下の方の表の中になります。健康寿命の延伸と健康格差の縮小をはじめとするとこにあります、5つの柱がありまして、そこに関係のある目標を立てて、今回評価しております。9ページ、10ページの方に細かい計画が出ておりまして、今回それぞれ立てました目標に関して、8ページ中ほどになります。目標に関してS・A・B・C・Dとしまして目標に達しているのか、改善しているのかの評価をさせていただいております。実際のところ、目標に達している、改善しているというもので31項目、52.5%が改善したと言われておりますけれども、変化がない、変わらないが28.8%、悪化していたというのが11.9%、当初の計画からいろいろ評価方法がが変わりまして、ちょっと今回は評価が困難だったものが4項目6.8%あったという状況でございます。実際にこの後、伊予市さんの計画についても内容等確認して参るところではありますけれども、愛媛県の方でも県の報告、それから市町さんががんばってやっていただく計画、そのあたりが相まって愛媛の健康寿命の延伸とか健康格差の縮小の方に続けばいいなと思っております。</p>
○会長	<p>はい。ありがとうございました。以上がそれぞれの団体の方からの取組みの内容になりますが、今まで話を聞いた中で何かご意見、ご質問がありましたらここでお願いします。</p>
○委員	<p>何かないでしょうか。県のこのヘルスアップ選手権というのは次年度も計画してやる予定ですか。</p>
○委員	<p>3年を目標に考えているところです。今回は、健康づくりの生活習慣病予防を中心に目標を決めましたけれども、来年度、やれる方向で検討しておりますが、来年は運動も加えてやっていきたいなと思っております。</p>
○委員	<p>こういう情報は商工会とかにも入ってきているのでしょうか。</p> <p>こちらです。健康づくりの会議、ヘルスアップ選手権の方にも商工会さんにきていただいて、いろいろ検討にも加わっていただいております。</p>
○会長	<p>歯科医師会の佐々木先生、何か取組みとかここで話せることがあればお願いします。</p>

○委員	<p>歯科医師会では毎年、6月4日に砥部動物園で動物さんの歯をみがくことによって、啓蒙活動をやっております。去年は「口から食べたい」も20回、20回で一応打ち止めにはしたのですが、それからついこの間のお休みの時にウエルピアでまなぼうさいというのをやりまして、その中の歯科のコーナーで災害時こそ歯科口腔ケアというような題で出店しました。</p>
○会長	<p>どうぞ。</p>
○委員	<p>ちょっとお聞きしたいのですが、学校給食で伊予市の地産地消の部分の伊予市の部分がまだ、十分に取組んでないとお話ですが、自家用菜園を作る農家の人を見てみても、種類がだんだん減ってきて作りやすいものばかり作るようになってきたような気はするのですが、どういった理由か分かる範囲いいのですが教えていただきたいのですが。</p>
○委員	<p>まず、最初に言いにくいことをいいますが、伊予市の（計画の）目標の30%がかなり無理な設定になっております。県の愛媛県産品の使用を30%という目標が最初たてられていたくらいで、今でも県産品が40%というところなので、伊予市のもので30%を賄うというのは、なかなか至難の業だというところがあります。あと、給食センターでは3,200食のものを作っておりますので、玉ねぎだったら年間で20トンぐらいの量になります。なので、玉ねぎをまとめて作っていただいて、じゃあどこに保管しておくのというところもあるんじゃないかなと思います。なので、今は入札方式で、伊予市産ならいくら、県内産ならいくらで、それ以外だったらいくら、という風に細かく分けて入れているんですけど、農家の方はご苦労なさっていて、毎回、同じような量が取れるという訳ではないので、去年、この時期にかぶがあったからと思っても、それで予定して献立を入れていたら、ちょっと難しいですねということもあつたりはします。でも、野菜はそういうような現状で、魚についても伊予市には海があるのですが、鱧については鱧すり身を下灘漁港で入れてもらっています。それは加工するので、安定した供給ができるのですが、他の取れ高によってとかいうようなことになると3,200人分の切れに作るというところも、なかなか問題があつて、でも、今年はすり身だけではなくて、鱧の切り身でてんぷらにするというメニューもいれました。それは、豊田漁港の女性部会の方たちががんばっていただいたので、少しずつですが幅を広げていこうとはしています。お米については100%伊予市産のものを使わせてもらっています。なので、ちょっと野菜については業者だよりみたいなのがあつて、ほんとに契約農家みたいな形で作っていけるのが一番いいのだろうなということで生産者との会も持ちつつ、今、模索しているような現状です。</p>

○会長	はい、よろしいでしょうか。ここの割合っていうのは、品目なのか。
○委員	はい。量じゃなくて
○会長	品目。じゃあ、ごはんは1品目ですか。
○委員	はい。たくさん使っても
○会長	使っても1品目。そうですよね。エネルギーの占める割合とかにするともうちょっと・・・増えるのかなという気もするんですけど。 他になにかありませんでしょうか。 先ほどの子どもがしゃがみこめないというのが興味深かったのですが、理由としてはどういう理由が、しゃがみ込むのが難しいというのはどういうのが原因、ゲームのし過ぎとかそんなのがあるのでしょうか。
○委員	はい。やはり体が硬い子供たちが多いのかなと、学校医の先生も体が硬いよねというふうな話も言われたりします。 柔軟性は、やっぱり昔に比べたら低下している、ズポーツテスト的なところもあるのかなあという感じです。中学校ではやはり部活動でも、部活動単位でも実施前のストレッチですとか練習後のダウンというようなところも部活動単位で時間をかけてやっている部もありますし、小学校ではそのしゃがみ込みというふうなところで、集会活動で保健委員会の集会でちょっとそんな体の使い方、柔軟性のことを取り上げたりですとか、学校保健委員会で保護者の方に呼びかけたりというような、そういう取組みもしてるようです。
○会長	はい。ありがとうございました。
○委員	他になにかご意見とか。はい。どうぞ
○委員	ちょっと給食のことですが、子供いうとカレーライスというイメージが非常にすごく強かったですが、この12ページの資料をみると白いご飯が1位になるとして、カレーは62名の4番目ぐらいになっているので、ちょっと傾向は最近変わってきたのですかね。
○委員	はい。昨年もこの好きなものを聞いたのですけれども、パンについても味のついてない普通のコッペパンが第2位にきています。4年生と6年生と中2にしたものですがけれども、私たちの方もちょっとおもしろいなと思いました。パンについても、甘いアップルとかパインの粒とかが入ったようなパインパン、アップルパンとかもあるので、そういうものを抜いてコッペパンが第2位になっているし、今までだったら、わかめごはんとかが第1位にきてたと思うんですけど、わかめごはんをダントツ引き離して、白ごはんが多いので、やっぱり子供たちの嗜好がそういう風に二極化しているのかもしれない。味のついてない普通の白ごはんがおいしいという子供も増えているのじゃないかなって

<p>○会長</p>	<p>思います。</p> <p>そうですね。昔ならタコ飯とかカレーライスだとか上位にきそうな感じがするのですけれども。</p>
<p>○委員</p>	<p>他になにか。</p> <p>先般、中山で中山歯科診療所の高橋先生に歯の重要性について講義をしていただいて、心筋梗塞とか糖尿病に歯が重要な役目を持っていて8020という目標も掲げているというお話をしていただいたのですが、体のガンとか糖尿病とかそういうような定期健診は今、伊予市さんの方でご案内して徐々に健診率が上がっていると思うのですけれども、歯のそういう健診はなんでないのでしょうか。</p>
<p>○会長</p>	<p>事務局からなにか。歯周病健診に関して。</p>
<p>○事務局</p>	<p>歯科健診は、20歳から74歳までの方を対象に1回500円で年1回、歯科健診を受けれるようにしております。個別健診でしたら、指定の医療機関でしたら、伊予市、伊予郡の松前町、砥部町、伊予市の病院で受けれるようにもなっていますし、また、集団になりますと伊予市でも年に5回、全体の健診に合わせて集団でも歯科健診を受けれるような環境を整えております。</p>
<p>○会長</p>	<p>一応、あるにはあるのですよね。受診率がそんなに高くはないですか。あまり、こう知られてないと多分、健康づくりの会の安渡さんが知らないっていうのだから、あんまり周知がされてないのかもしれませんが。</p>
<p>○委員</p>	<p>すみません。同じことなのですが、全く知りませんでした。周知を広報なり、なんなりでもっと一般の人にしてください。よろしくお願いします。</p>
<p>○事務局</p>	<p>6月の広報で毎年、周知をしていますので、また、広報でも見ていただいて、4月の健診のカレンダーにも歯科健診のことを書いておりますので、またよろしくお願いいたします。</p>
<p>○会長</p>	<p>大事なところだと思いますので、よろしくお願いいたします。どうぞ。</p>
<p>○委員</p>	<p>さっきのしゃがみ込みの話なのですけれども、前に、テレビか何かで最近、しゃがみ込みができない子供たちを中心に増えている話で和式のおトイレがどんどんなくなっているというのが大きな原因ではないかというのをやっておりまして、やっぱりその最近、どんどん洋式になって、やっぱりそういう人間の体とかそういう面においても退化ではないのですけれども、そういう影響が出ているのかなあとというふうに思いました。あと、給食の件ですけれども、去年の春から高校生になった娘がいます。高校生になるとお弁当なんですね。下の子供は、まだ6年生で給食があるのですけれども、やはりお弁当になりますと毎日、毎日もう、いろんな意味で作るのも大変、献立を考えるもの大変、あと、お母さんが作るか、自分で詰めるか、戦いが毎朝繰り広げられてまして本当に</p>

	<p>今更ではあります、本当に給食を作ってくださいのご苦労とか大変さとかありがたさっていうのを痛感している毎日です。この場をお借りしまして本当にありがとうございます。あと、子供とのコミュニケーションという意味で、6年生の息子がいるのですが、やはり会話の中で今日の給食はおいしかった、おいしくなかった、今日、何が出たの？今日、ラーメン出たよ。ラーメンなんて俺の子供の頃、考えられないよ。とか、あと、ナムルですか、ナムルなんてまず出たことないよ。へえ、そうなんだ。という、その毎日の子供とのコミュニケーションにも大変、話題という意味では多く出てきておりました、そういう意味でも食育という面においてはやっぱり、給食っていうのは、ほんとにありがたくて大事だなということを痛感しております。ありがとうございます。</p>
○会長	<p>それでは、時間もおしてしますので、またご意見あればその他のところで意見交換のところで時間がありますので、また後程やります。</p> <p>それでは、協議事項の伊予市健康づくり食育推進取組み状況を事務局よりお願いします。</p>
○事務局	<p>事前に配布をしております資料をご覧頂いたらと思います。資料2は、目指す目標を項目ごとに全庁挙げての健康づくり食育推進に取組んでおります事業を一覧表にしてるものになります。資料3は、健康づくり計画における指標の変化を一覧にしております。この中から、健康増進課の取組みについて、担当より説明をさせていただいたらと思います。</p> <p>取り組みの報告の前に伊予市健康づくり・食育推進計画の概要について、確認のために説明させていただきます。</p> <p>今日、みなさんお持ちである計画の冊子の1ページ目をご覧いただいたらと思います。</p> <p>伊予市では、2007年(平成19年)に第1次健康づくり計画、2013年(平成25年)には、第2次伊予市健康づくり計画を策定し、2017年度(平成29年)に中間評価を行いました。また、2011年(平成23年)には、第1次伊予市食育1・4(いちよん)推進計画を策定し、2017年度(平成29年)に最終評価を行いました。健康づくりと食育推進が密接した関係にあることから、今回は、これまでそれぞれ策定し、計画に基づく事業を推進してきました第2次伊予市健康づくり計画(後期)と第2次食育推進計画を一体化させ、計画を策定しました。</p> <p>冊子の2ページ目をご参照ください。</p> <p>伊予市は「健康寿命の延伸と食育の推進を目標とし、子どもから高齢者までのすべての市民が住み慣れた地域で、こころ豊かに健康で暮らせるよう、力を合わせ支えあいながら、共に健康づくり活動(健活)と食育に取り組み、市民みんなでつくる健康のまち」を目指すことを基本方針</p>

としています。

以上が、この計画の概要になります。

次に、健康づくり計画の指標の評価についてです。

今回も昨年度同様に、算出可能な数値のみ資料3として事前にみなさまに送らせていただきました。そちらの資料をご参照ください。

まず(3)生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

①がんの指標についてですが、

毎年度、国が示す算出方法に基づき、受診率を算出しておりましたが、今年度からその算出方法自体が変更されました。従来通りの方法に基づき受診率を算出したのが、策定時の2011年度から2019年度評価(2018年度)までの数値となります。右端(網掛け部分)の母数：全人口と40～69歳国保とある受診率は今年度からの方法で算出された数値になります。今回は比較しやすいよう、策定時から用いている算出方法で比較します。中間評価から2019年度評価までの3年度分の受診率を比較すると、どのがん検診においても横ばいもしくは緩やかに低下しています。

②循環器疾患の指標については、収縮期血圧の平均値は中間評価時と2018年度評価時の比較では、男女ともにわずかではありますが、上昇しており、2019年度評価においては横ばいで平均値に変化はみられませんでした。LDLコレステロールに関しては、2018年度評価時は男性がわずかに上昇し、女性は中間評価時よりさらに低下していましたが、2019年度評価時は男女ともに増加しています。

③糖尿病の指標については、治療継続者の割合は上昇が続き、血糖コントロール不良者の割合は策定時より、中間・2018年度評価時までには減少しておりましたが、2019年度評価時は再び増加しています。この結果から治療が必要な方の治療継続ができており、またこれまで未受診であった方の受診が増加したことが糖尿病有病者の増加につながったのではないかと考えます。それには少なからず特定健診受診率の増加が影響していると考えます。

一方で血糖コントロール不良者が増加していることから、医療機関を受診する方が増えても、適切な医療につながり、その治療が継続できているのか心配されると同時に、血糖コントロールには食事や運動等の生活習慣の改善が不可欠であるため、その生活指導等が行き届いていないことも現状であると考えますので、健康増進課としてでき得ることは、まず健診受診をしてもらい、その結果に応じた生活改善の指導を行うこと、健診受診者だけでなく、医療機関からの要指導者の受入れも今以上に積極的に行い、地域の医師との連携をより深めしていく必要があると考えます。

健診を受けて数値をみることで初めて、自分自身の体の中で何が起こ

っているかがわかります。健診受診者の中で、血糖値やHbA1cが高い方のうち、病院にかかられていない方には、生活状況の確認と保健指導を行うだけでなく、受診の必要性をお話しています。2017年度(H29)から開始した糖尿病性腎症重症化予防に継続して取り組んでいます。

今年度からは、対象者を後期高齢者に広げ、取り組んでおります。地道な活動ではありますが、この予防活動を今後も継続していきたいと思っております。

④肝疾患の指標については、2018年度評価時はB型肝炎・C型肝炎ともに受検率が減少していますが、2019年度評価時にはB型肝炎の受検率は増加、C型肝炎の受検率は減少しています。2018年度から勧奨対象者を年度末年齢61歳で国保以外の方に絞って勧奨ハガキを送付しております。また、毎年度、陽性者が数名出ていることも現実です。陽性者には個別で説明を行い、受診を促しております。受診に結び付いたか、治療が完了しているか等の確認を行い、治療開始・継続においても見届けております。

2ページ目をご参照ください。

⑤特定健診・特定保健指導については、受診率・保健指導実施率ともに上昇し続けています。メタボリックの該当者は減少していますが予備軍については上昇を続けています。

健診受診者が増えたことで、保健指導の対象者も増加したと考えます。

特定健診の受診率は、増加し続けていますが、目標にはまだまだ届かない数値になっております。2015年度より継続して特定健診の未受診者勧奨事業を外部機関に委託し受診勧奨を行っていますが、昨年度から委託機関を変更し、勧奨方法や勧奨対象者をグルーピングしてより効果的に受診勧奨してもらえたことも影響していると考えます。また、インセンティブとして年度末年齢が40歳の特定健診受診者には粗品をプレゼントし、受診継続も促しました。

今年度は、特定健診の無償化と受診率の低い層である40～50歳代の特定健診受診者のうち、初受診者もしくは2年連続受診者には、粗品をプレゼントし、継続受診を促すとともに、実施率の向上を目指しました。

来年度の取り組みとしては、受診者数を限定した人間ドックの実施や共済健保の扶養者への特定健診受診の場を広げることを検討し、がん検診受診につなげたいと考えております。

保健指導実施率については増加をしておりますが、今後も継続した取り組みが必要であると考えております。

来年度以降も特定健診・がん検診ともに受診率をあげ、健診結果に応じ、必要な保健指導を実施し、翌年度の健診結果が改善できるよう取り

組んでいきたいと考えます。

(3) 社会生活を営むために必要な機能の維持・向上

②次世代の健康の指標である低出生体重児の割合は上下を繰り返し、今回の評価時は減少しております。出生数に伴い低出生体重児数も変化しています。出生数が増加している年は低出生体重児数も増加するという傾向がありますが、2017年の増加に関しては、双児の出産が多い年だったことも影響しております。

肥満傾向にある小学5年生の割合は男子は2年度続けて増加しており、女子は増加と減少を繰り返しています。

③高齢者の健康の指標については、要介護者認定割合、低栄養傾向の高齢者割合はともに横ばい傾向です。

では、3ページ目をご参照ください。

(5) 栄養・食事・身体活動・運動、休養、飲酒、喫煙及び歯・口腔の健康に関する生活習慣及び社会環境の改善のところですが

④の飲酒 ⑤の喫煙の指標については、妊婦中の飲酒・喫煙ともに増加をしております。

喫煙妊婦からの出生児が低出生体重児だったかどうか、ここ3年度分さかのぼって見たところ、もともと喫煙妊婦数は少数ではありますが、喫煙妊婦の約3割弱が低出生体重児もしくは流産をしていました。母子手帳交付時点で喫煙妊婦には喫煙のリスク等を説明し、禁煙指導を行っていますが、やめられない方がほとんどであるのが現状です。妊娠期より、より早い時期に、喫煙リスクについて、理解することで、はじめからタバコを吸う習慣が身につかないように、導くことができればよいと考えます。

⑥歯・口腔の健康の指標については、3歳児のむし歯のない人の割合は今回減少しております。むし歯のある子の特徴としては、1～2本ではなく、数本からひどい場合はほとんどの歯がむし歯になっているという極端な子供さんが多くおられます。また、3歳児健診より前の段階にある1歳6か月児健診時点でむし歯リスクのある幼児をスクリーニングし、その幼児と親御さんを対象に、むし歯予防教室を実施しております。母親への歯磨き指導と同時に子供たちが楽しく歯磨きできるよう取り組んでおります。

12歳児の一人平均のむし歯数は今回は減少しております。

健康増進課として取り組んでいる事業は資料2にまとめて載せておりますので、そちらも参考にさせていただいたらと思っております。

以上が、中間評価時の数値と最新の数値を比較をしての報告になりますが、この計画は、2023年度(平成34年度)までの期間をかけて目指す目標を定め、そこに向かって取り組みを行っています。1年度ごとに出せ

ない指標もありますし、1年度毎に数値を出すことが可能な指標もあります。点と点の見方というより、毎年度算出した数値の推移をみて、点と点をつなげて線でみるということで、最終評価できるものと考えております。

また、今回の評価に用いている数値は、2017～2018年度の数値を算出しております。今年度の取り組みが反映された数値ではありませんが、最終評価まで、長い目でみていただければと思っております。

では最後に、「ますますいーよ健康ポイント」事業について、話しておきたいと思っております。お手元にありますグラフが掲載されている資料4、あとポイント事業のチラシの方を参考にみていただけたらと思っております。

この事業は今年度より実施しておりますが、アプリ登録者数は伸び悩んでおりますので、そのあたりのことも、あとで皆様にご助言いただけたらと思っておりますので、よろしく願いいたします。

この事業は市民の健康づくりを推進することを目的に伊予市広域で参加者を募ることができるスマートフォンのアプリやポイントカードを用い、歩数に応じたポイントを付与し、貯まったポイントを500円の達成券に交換できるという流れになります。達成券は本事業の協力店で使用することができます。登録状況についてですが、皆様のお手元にあります、グラフが掲載されている資料4をご参照ください。令和2年1月6日現在の登録者数は405名です。アプリ登録者数の累計は左上のグラフになります。9月末から10月にかけて、「ますまい～よ健康ポイント事業」のチラシを市内の小中学校を通じて保護者に向けて配布いただきました。また、11月頃より、NTTドコモショップの窓口来店者にショップから登録を案内してもらっておりますので、登録者数とその時期から右肩あがりに増加していることがわかると思います。また、アプリでの登録や設定が難しいという声がありましたので、この2月から、窓口で健康ポイント事業参加申込書を記載していただければ、その場で登録できるよう改善いたしました。しかし、当初見込んでいた登録者数にはまだまだ届かない状態です。また、地区でみた場合、伊予地区の方が6割を占めておりますので、中山や双海地区の方にも登録していただけるような取り組みが必要かと考えております。ポイントカード交付者に関しては、それは一番下のグラフになります。中山地区が6割以上を占めており、年齢層では60代、70代、80代が多い状況です。今後もこの事業をより多くの方々に知っていただき、利用していただくことができるよう、改善を図ると同時に周知していきたいと考えております。皆様からも、改善等ありましたら、ぜひお聞かせ願えたらと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

<p>○会長</p>	<p>以上、健康づくりに関するこれまでの取組みと今後の取組みについての報告を終わります。</p>
<p>○委員</p>	<p>それではですね、ただ今の件につきましてご意見、ご質問があればお願いいたします。</p> <p>ご意見がありました歯に関する定期検査について、指標の変化の中には、⑥歯・口腔の健康の3歳児でむし歯のない人と、12歳児の1人平均むし歯、これからを背負う子供たちの口腔管理ということで非常に重要な指標だとは思いますが、先ほど、いわゆる成人の歯周病対策に対しては、広報で周知もしていただきたいとは思いますが、今を背負っている、いわゆる歯周病とかに罹りやすい人の健康寿命を延ばして、ひいては地域で働く力というふうな抽象的な大きな話になってしまいますけど、そういった観点から、その一環として成人の方の歯周病対策どのような、どれくらいできているかというような指標はないのでしょうか。</p>
<p>○会長 ○事務局</p>	<p>事務局よりなにか</p> <p>冊子の50ページを開けていただいたらと思います。上は3歳児のむし歯のない人の割合、その次に12歳児の1人平均のむし歯の本数ということで書いてはいるのですが、それから以降、歯の定期健診をしている人の割合だったり、それ以降のことは大人のことになります。これに関しては、今回、冊子ができていないのは、アンケートから拾い出している数値になりますので、これは最終評価の時にアンケートを市民のみなさまにお配りをして、回収をして、集計をしてっていう流れになりますので、今回、数値としては出せない部分にはなっております。</p>
<p>○委員</p>	<p>はい。わかりました。ちょっと記憶がはっきりしてないのですが、前の職場で、歯のチェックリストというのを職員に渡しまして、その中でも、1つひかかっていたら、そのチェックリストを持って歯医者さんに行けば、まず、第一段階の検査は無料と、で、あとは当然、個人の自由になりますけれど、そういったインセンティブみたいなのも、いろいろ考えていただければどうかなと、まあこれは単なる要望ですが。</p>
<p>○会長 ○委員</p>	<p>中予保健所の事業で。</p> <p>おそらく、愛顔の健康支援協力事業所のことをお話いただいているのではないかと思います。これは職場の従業員の方が、歯と口腔の健康づくりを積極的に取組む事業所さんで、手を挙げていただいたところに対して、このような「お口のセルフチェックシート」っていうのをお配りいたしまして、健診、治療に繋げているというものでございます。今もこちらはしております、もし、従業員の歯のことについて積極的に勧めたいという事業所さんが伊予市であるようであれば、中予保健所にご連絡いただければ一緒に活動ができると思います。</p>

○会長	事業所単位での事業ですよ。
○委員	そうです。事業所単位になりますので、小さな事業所でも結構ですし、大きな企業さんでも大丈夫ですので、是非、お電話いただければと思います。
○会長	よろしくをお願いします。伊予市さんは、子供は非常に歯の歯周病や齲歯の関係は非常に良好なんですね。全体、県全体でみても中予地区は非常に指標がよくて、それをどういうふうに維持できるかと思うのですけれども、他にございませんでしょうか。
○委員	先ほど、唐川の方の集落の実態ということで、後継ぎもおらなくてパックものを買うような食生活が続いているということで、商工業団体からしますと、スーパーの売上げが上がっていただくのは非常にありがたいんですけど、いわゆる老々介護とかそういった生活環境の中で、そういった自分で料理を作るのもしんどいなという高齢者家庭に対する、ヨシケイとか宅配業者があったようにも思うのですけれども、そういったものを行政において一部補助でもいいのですけれども、そういった仕組みというのは考えられないものでしょうかね。
○会長	はい。事務局で何か答えになるような計画とか事前に実施しているものがあれば。
○事務局	資料2の2ページの長寿介護課の方で、65歳以上の1人暮らし高齢者のみの世帯の方を対象にお弁当を自宅へ配達してその時に、手渡しすることで安否確認をする伊予市高齢者配色サービス事業はやっております。 あと、吉澤さんの地域で、高齢者の方が食事を習いたいということで、地域で料理教室みたいなものをしてほしいということも言われていたのですが、例えば、保健センターで食育出前講座をやっています。講座では市職員が地域に出向いて栄養や健康についての講義とか調理実習を行っています。講師料は無料ですので、もし地域の方で10人ぐらい集まれば希望に応じたテーマで講座を開催しますので、保健センターに申し込みしていただけたらと思います。 また、栄養相談も保健センターで行ってまして、これは1対1の個別の相談になるんですが、献立選びとか、食事づくり、あと食事療法をどうしたらいいかというような相談がある場合は、食べ方などを栄養士がアドバイスしています。こちらは、予約制になっていますが、もしそういった栄養の相談を希望する方がいらっしゃいましたら、また保健センターの方に相談してもらったらと思います。
○会長	そうですね。いろいろ法的なサービスがあるようですので、この配食サービスというのは利用者226人くらいということなのですが、配食サービスというのは、主に、伊予市内であれば中山とか双海とかでも使

○事務局	<p>える、利用できるよになっているのですか。</p> <p>はい。双海、中山でも申込みますので希望がある方は長寿介護課に申込んでいただいたら、1人暮らしの方で調理が困難な方でしたら利用できるよになっております。</p>
○会長	<p>独居者ということが条件ですね。自分で作るのが困難であるというのが条件なのですか。</p>
○事務局	<p>あと、高齢者のみの世帯の方でも申し込みできます。</p>
○会長	<p>他に何かご要望とかですね、意見とかあればお願いします。</p>
○委員	<p>今、配食の話をしていただいたのですが、この集落でもお二人くらいは利用しているみたいで、ただし、土日は配食がないということで、土日は自分でそういったパックものを買って済ますということになってるようです。やっぱり、ほんとに1.2年で様子がコロッと変わってしまって、今まで買い物に出かけられよった人が1年くらいすともう出かけられないという風に、特に75過ぎて80代まで来るとほんとに明日わからんというのが実態ではないかなという風に思っております。実際、行政のサービスが十分に届くようになる時には命がないという風な、変わっていくスピードが速いかなと思うので、そういった行政で手当であるのであれば、少しでも元気な人が紹介をして、ちょっとでも利用するというふうにしていきたいなあという風には考えております。ありがとうございました。</p>
○会長	<p>その辺り、少しニーズがあるのであれば、どういう風な形でというのは難しいかもしれませんが、そうですね、土曜日、日曜日、食事は休むことはできませんので、なかなか難しいところもあるのかなと。</p> <p>先ほど、「ますますい～よ」というのが、ようは登録者が伸び悩んでいるところなんですかね。本来ならば、1300人くらい利用してもらいたいのが、今のところ400人強くらいかなと・・・この辺り、委員のみなさま方、登録はしているのだろうか、使いやすいのか使いにくいのか、なにか、利用が増えるようなアイデアとかあれば、また、・・・そもそもスマホを持ってない人がたくさんいるのかもしれないけれども、いかがでしょうか。</p> <p>まあ、ポイントの交換できる人の方が達成感があるのでしょうかね。とっかかりが、なんとなくこうめんどくさいなという風な感じもしないことはないのですけど。</p> <p>実際、職員のみなさま方は、登録してやってる。</p>
○事務局	<p>私、昨年4月から、こちらに参りまして、さっそく4月2日に登録させていただきました。実際に登録をしてはみたのですが、なかなか最初の時に進めないという実態があって、登録の仕方が複雑な部分がありまして、ここで断念されてる方が結構いらっしゃるというのは聞いてお</p>

<p>○会長</p>	<p>りました。</p> <p>ですので、それもありまして、NTTの方にも改善を求めたりして、保健センターの方でも登録ができるようになりましたので、そのあたりで多少登録数が増えているという実感はしております。</p> <p>全体を通してでも構わないのですが、なにかご質問とかあれば、事務局から、食育に関しての情報提供があるということですので説明をお願いします。</p>
<p>○事務局</p>	<p>昨年度の協議会におきまして、委員の方から子供の食事の問題に関連して、こども食堂の開催状況がわかれば、教えてください。とのご意見がございました。</p> <p>このことについて報告します。</p> <p>子育て支援課に確認しましたところ、伊予市にはこども食堂が3つあって、地域のボランティアや児童館などが月に1回程度開催しています。児童館では、子供のみ参加ですが、あとの2つは大人の参加もあるようです。また、地域での食堂について社会福祉協議会に確認したところ、民生児童委員から子ども食堂を開催したいという希望があり、検討し、子どもだけでなく高齢者も含めた地域交流が図れるものにしたいという意見にまとめ、平成30年10月から、6つの地区民生委員協議会で各1回開催し、令和元年10月で伊予市全体が終了したところだそうです。</p>
<p>○会長</p>	<p>今後、どのように開催していくかを協議していくとお話でした。</p> <p>その他の事務局の方で用意しているものはありましたでしょうか。</p> <p>それでは、もう少し時間がありますので意見交換というところで、委員のみなさまから全体を通じてでもいいし、いろいろ要望とかですね、そういう部分も出ているようですけれども、何がございましたら声が聴きたいですので、御発言いただければありがたいですが。</p>
<p>○委員</p>	<p>下吾川で佐々木歯科という歯医者をやっております。</p> <p>先ほど歯科の健診事業がないのはどういうわけだ。というですね、子ども食堂の話も出ました。今日は、学校関係者も来てますから。無農薬野菜を一生懸命やってる方もいました。実は、これは全部、関連しているという話をいたします。</p> <p>まず、日本で初めて子ども食堂をやったのは歯科衛生士です。歯医者に勤めていた人ですね。なぜそういうことをやったのか、ということ僕は何年も前に聞きました。それはですね、自然食品のお手伝いをしてたのです。その方はですね。そこで、子供さんが集まっていて学校の授業についていけないということで、補習授業をその方がやったのです。それをやってるうちに、どうもお腹が減ってるみたいやと、腹が減っては戦ができないのですよ。勉強できないのです。だから、ごはんを食べ</p>

させたのです。それが出発です。さっき言った、全部関連してるでしょ。そういう、今の現代の社会の中で、非常に細かいことに気が付く人が、まず気が付くのです。そして、行動するのです。それが出発です。それが、どんどん輪が広がって行って、公的な施設などからそういうこともしましょうということで、国の税金でそれを賄って行くわけです。現代社会ということ考えた場合に、歯科医師の役割は非常に大きいと思っ
てます。僕もそれは自覚しています。今まで通りに歯を抜いて入れ歯を作
って、銀歯をかぶせてやっていたのでは、これは全然追いつけない、も
っともっと違う発想で歯科ということを考えないと、これは社会に追
いついていけないじゃないかということは学生の時からずっと思っ
てまして、そういう勉強はしましたけれども、その勉強したということと、
自分の職業として成り立つかということは、別問題でありました。

それは、保険制度というのがありまして、話にならないということ
です。だから、志はあっても現実にやっていることは、ちょっと方向違
いのことを、歯医者のみなさんはやっております。でも、社会はそれを
求めているみたいです。健康寿命を延ばしましょう。それから、健康格
差を縮めましょう。すごい立派なテーマです。これを現実に実行するた
めには、どれだけのことをやらなければいけないか、教育から農業から
商業からそれから学術的な学問から、ひょっとしたら行政からすべての
ことを根底から見直して変えていく必要があるのじゃないかなという気
はしております。

私は時々そういうことを考えております。ただ、地域で一部を照らす、
まあ、ちょっと文句言いの歯科医院であるのは間違いないみたいです。

この会議の意義をまとめていただいたような感じがします。今日は
いろんな組織の代表の方が集まっていまして、一つ一つの組織で動くの
でなくて、これらが融合していくとより良いものになるのではないかと
いう風に思います。そこを行政次第というよりはですね、気が付いた人が
主体になって組織同士が融合して、またより良いものが生まれてくるよ
うな感じもしますので、今日いろんな情報や活動が報告されたと思いま
すので、そのあたり自分のところで何かできるんじゃないかなというこ
とをですね、もう一度、考えていただいて、また次年度の活動に繋げて
行ってほしいなという風に思います。

なかなかこう、範囲が広すぎて、どこからせめていけば、見えにくい
ところはあるのですが、指標自体はそんなに悪くはなっていないし、今
日は少し課題も出てきましたが、そういったところを次年度の取組みに
繋げて行っていただくとありがたいなと思います。

他に委員のみなさま、他にございませんか。

最後にみなさまに知っておいていただきたいということで、「なく

○会長

○委員

<p>○会長 ○事務局</p>	<p>そう！望まない受動喫煙。」ということで1枚パンフレットを入れさせていただきます。</p> <p>オリンピックが近づいて参りましたが、健康増進法で受動喫煙について防止を図ろうということで、この4月1日からほぼ全面禁煙が施行されますので、みなさんご存じかとは思いますが、また読んでいただければと思います。裏側の方に事業所のみなさまへということで、書いておりますけども、第1種施設、学校とか病院とか診療所・行政機関につきましては、もうすでに昨年の7月1日から敷地内禁煙ということで進んでいるところでございますが、この4月1日からは、事業所とか工場、その他のいろいろなところで原則、屋内禁煙というような運動が進んでまいります。法律で決まっておりますので、4月1日から完全施行ということになります。飲食店も含まれておりますので、また、みなさまも読んでいただければと思います。</p> <p>一番最後の講演会はいいですか。</p> <p>こちらの方はまた健康セミナーのご案内ということで2月29日土曜日にこちらの会場で自殺対策に関する研修会という風に位置付けて「正しくうつを理解して、うつになりにくい生活を」というテーマでの講演会の開催を予定しております。</p> <p>これは、すでに広報等では周知をしているところですが、また委員のみなさまもご都合がよろしければご参加いただけたらというふうに思っております。</p>
<p>○会長 ○事務局</p>	<p>それではですね、協議事項の方はこれで終了させていただきますので、議事進行の方はここで終了させていただきます。</p> <p>それでは、その他というところで、事務局の方にお渡しします</p> <p>健康づくり・食育推進は市民一人一人が正しい知識を持ち、個々にあった健康づくり活動、食生活の継続した実践が必要になってまいります。今後も、市民や地域、関係団体、行政が一体となって市民みんなで作る健康のまちの実現に向けて、取組んでいかなければならないと考えております。また、本日、みなさまからいただいたご意見を参考にまた事業の周知にも努めてまいりたいと思います。</p> <p>なお、委員のみなさまの任期は3月末で満了となります。任期中には伊予市健康づくり・食育推進計画の策定に携わっていただくなど、たくさんの貴重なご意見をいただきましたことに対し、改めて感謝を申し上げます。最後になりましたが、委員のみなさま、各団体の今後ますますのご健勝とご活躍を申し上げまして簡単ですがお礼の言葉とさせていただきます。以上を持ちまして、令和元年度伊予市健康づくり・食育推進協議会を閉会させていただいたらと思います。</p>